

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	57人	社会	56人	数学	56人
	理科	56人	英語	56人		

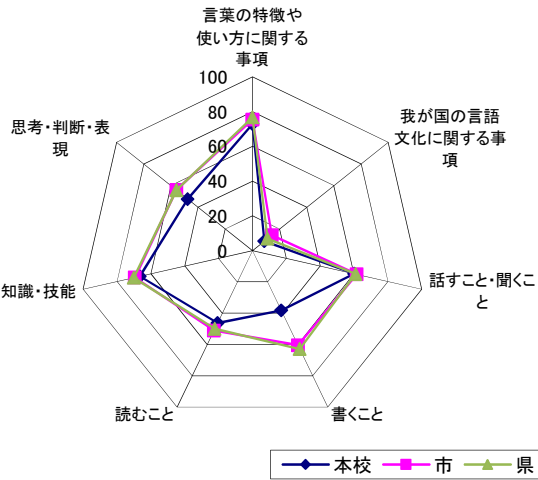
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.9	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	8.8	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	60.1	61.6	60.9
	書くこと	38.2	60.4	62.9
	読むこと	46.3	51.0	49.9
観点	知識・技能	66.5	69.4	70.1
	思考・判断・表現	47.7	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

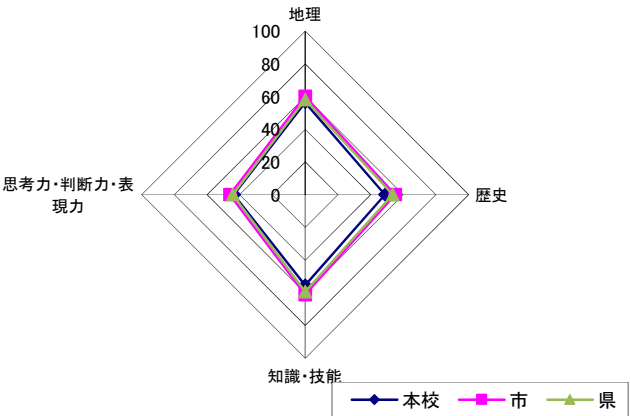
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント下回っている。 ○補助の関係に関する問いでは9割以上、故事成語の使い方にに関する問いでは約8割の生徒が正しい答えを選択した。また、漢字を読む問題では、全員が解答し、正答率も9割を上回っている。 ●漢字を書く問題では、小学校で学習した訓読みの漢字(「幹(みき)」)の正答率が2割程度と低く、無解答は5割を超え、この調査の中では最も高かった。	・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な、①漢字の成り立ち・②音読みと訓読み・③部首の知識の3点を身に付け、それを漢字の学習に生かしていくようにする。 ・継続的に行っている漢字練習の際に、「新出音訓(小学校で学んだ漢字について、中学校で新たな音訓を学習するもの)」を「新出漢字」と同様に取り上げたり、訓読みの漢字についてはより意識して学習するように促したりしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を5.5ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題(ひとしほ一ひとしお)の正答率は52.6%で、市の平均を上回っている。 ●同じ問題で、長音「やう」を「よう」に直せた生徒は、8.8%だった。また、無解答の割合も24.6%と高かった。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、古典の読解を進めていく上で必要になる知識なので、授業や問題演習の度に確認したり、授業で音読・暗唱を行ったりして定着を図っていく。 ・長音については、「枕草子・徒然草」の授業でも取り扱う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を1.5ポイント下回っている。 ○話し手の話し方として適するものを選ぶ問題では、6割強の生徒が正しい答えを選ぶことができ、市の平均を上回っている。 ●条件に従って自分の考えを、15字以上、30字以内で書く記述式の問題では、正答率は市の平均とほぼ同じであるが、無解答の割合が17.5%と高めだった。	・「相手が伝えたいことは何か」に焦点を当てたり、必要に応じてメモを取りながら話を聞いたりして、話の内容を捉えられるようにする指導を継続していく。 ・40字程度の記述式の問題については、演習を通して、問題を正確に理解し、条件に合わせて文章を書く力は身に付いてきている。今後も、演習やその添削指導を通して、問題文や条件に用いられている語句を書き出しに利用する考え方などを指導し、書くことに対する苦手意識の軽減に努める。
書くこと	平均正答率は、市の平均を22.2ポイント下回っており、本調査の中では最も差が大きい項目になった。 ●問題文中に示された「条件」にあわせて、読み取った内容や自分の考えを書くことができた生徒の割合は3割弱であった。また、2割弱の生徒は無解答であった。	・200字程度の条件作文を書く問題については、演習を通して、①原稿用紙の使い方、②「自分の考えを書く」という場合の「考え」の定義、③問題に示された条件を構成や内容に反映させる考え方などに対する理解が深まってきている。今後も演習やその添削などの学習活動を継続して力を伸ばしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を4.7ポイント下回っている。 ○文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題では、指定された条件や文字数(20字以上30字以内)で解答した生徒数は、市の平均を上回った。 ●登場人物の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く問題では、無解答の割合が29.8%で、本調査では二番目に高かった。	・説明的文章については、段落ごとに内容をまとめたり、接続語や指示語に注意しながら、筆者の主張を読み取ったりする読み方に加え、同義的言い換えを正確にたどれるようにしていく。 ・文学的文章については、登場人物の言動や情景描写を根拠に、心情を読み取る力は身に付いてきている。自分の言葉として正しく使える、気持ちを表す言葉の語彙を増やすなどの指導を継続し、より深い読み取りができるようにしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	56.4	60.1	58.1
	歴史	48.8	55.1	53.5
観点	知識・技能	55.4	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	43.6	46.0	44.3



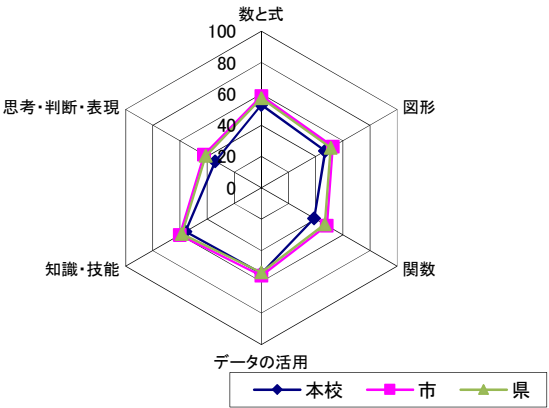
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○世界の気候帯の問題では市の平均より9.7ポイント、県の平均より12.8ポイント上回り、世界の地形の問題では市の平均より14.1ポイント、県の平均より17.6ポイント上回るなどよく身に付いている。 ●三大洋の名称と位置関係に関する問題では、市の平均より13.7ポイント、県の平均より11.9ポイント下回った。基本的な知識が不足しており、資料の読み取りと表現を苦手としている生徒が多数いる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・授業の中で、基本的な内容の定着が図れるように1年生での既習事項などの復習を織り交ぜながら、多様な意見や見方考え方を広げ、柔軟な思考力を培っていく。 ・掲示物に世界地図や日本地図を取り入れ、日常生活の中で世界各国の状況や場所を知ることができるようにしていく。 ・知識の習得を優先し、定着したものを活用できる力を身に付けさせていくために、毎回の授業で復習を織り交ぜながら、全体的な学力の向上を図っていく。その中で、資料の読み取りや表現の問題を取り入れていくことで、将来的に多角的な考察ができるように知識を蓄積させていく。
歴史	○律令国家における問題では、その平均より5.0ポイント、県の平均より7.8ポイント上回り、古代文明の特色に関する問題では、市の平均より2.6ポイント、県の平均より5.2ポイント上回るなどよく身に付いている。 ●大和朝廷と前方後円墳の分布の関わりについて、資料を読み取る問題では、市の平均より13.3ポイント、県の平均より10.4ポイント下回った。地理同様、基本的な知識が不足しており、資料の読み取りと表現を苦手としている生徒が多数いる。	・外交や生活の様子など、具体的な資料を用意しながら、それが存在した時代の文化や特徴を伝え、少しずつ抽象的な思考ができるように指導をする。 ・文献資料や地図資料の活用を広げ、多角的な視野で物事をとらえる見方を身に付けられるようにしていく。 ・思考力・表現力を高めるために、グループによる話し合いを通して答えを導く授業を実践していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.0	58.6	57.2
	図形	47.0	52.6	51.1
	関数	38.8	48.2	46.8
	データの活用	54.6	56.1	54.1
観点	知識・技能	55.9	60.2	58.6
	思考・判断・表現	33.9	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

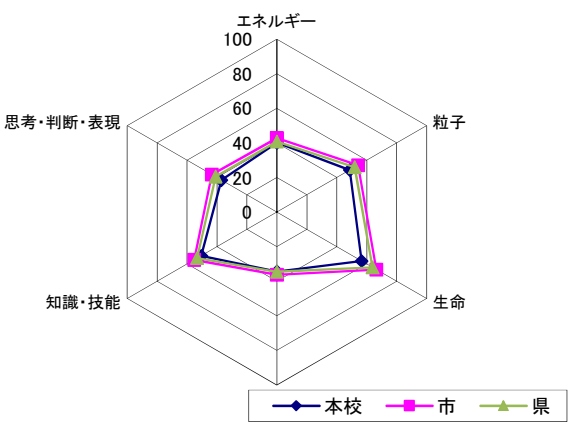
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	市の平均から5.6ポイント、県平均からは4.2ポイント下回っている。 ○基礎的な計算演習については、県の平均と比べて下回っている項目で2ポイント程度である。基礎的な計算の演習時間を授業の最初に取り入れている成果である。 ●絶対値や素因数分解など言葉の意味を問う問題の正答率が県平均から大きく下回っている。	・基礎的な計算演習を今後も授業の最初に行い、確認していく。また、言葉の意味については、ノートに丁寧にまとめたり、授業中に出てきた言葉の意味をその都度、しっかり確認したりしていく。
図形	市の平均から5.6ポイント、県平均からは4.1ポイント下回っている。 ○作図や表面積を求める問題で県の平均を上回っている。 ●扇形の面積を求める公式や角錐の体積を求める公式を基にした問題の正答率が5割程度である。	・公式の確認も大切だが、授業の中でなぜその公式が成り立つのかを考えさせていく。また、扇形は、円の面積や円周の公式と比較させたり、底面積と高さが同じ角柱と角錐の公式は、その二つの体積の公式を比較させたりして、特徴を見つけさせていく。
関数	市の平均から9.4ポイント、県平均からは8.0ポイント下回っている。 ○8割以上の生徒が表から比例であることを見出すことができている。 ●1問以外県の平均を大きく下回っている。	・基礎的な学習内容をもう一度振り返る必要がある。2年次では1次関数の単元があるので、まず関数とは何かについて確認していく。また、比例や反比例にも触れながらグラフの書き方、変化の割合とグラフの特徴の関係についても触れ、定着を図っていく。
データの活用	市の平均から1.5ポイント下回り、県平均からは0.5ポイント上回っている。 ○県の平均より正答割合が上回っている。 ●グラフを読み取って結論を出したり、結論を出すために必要なデータを選ぶ問題の正答割合が低い。	・この単元に関しては、グラフを比較・検討したり、自分の考えを筋道立てて伝えるためにどのようなデータを活用したらいいのかを考えたりする時間を授業で設け、思考力・判断力を伸ばしていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.2	42.8	40.8
	粒子	48.7	54.2	52.0
	生命	56.5	66.4	63.8
	地球	34.4	36.2	34.5
観点	知識・技能	50.5	55.2	53.3
	思考・判断・表現	37.2	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

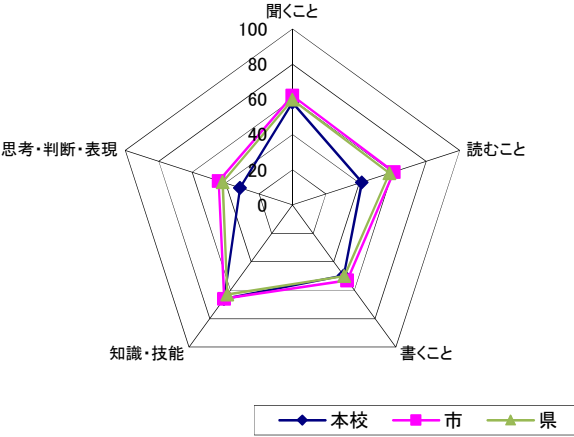
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	全体的に、県平均、市平均を下回る結果となった。 ○光の進み方や音における基礎的な内容の知識を問う問題では、理解度が高く、県や市の平均を上回った。 ●実験の結果から考察を導く問題については正答率が低く、平均を大きく下回った。	・基本的な知識は身に付けつつあるが、実験結果から考察を導く問題に課題が見られる。実験の意図を明確にしながら、結果から考察を行うまでの手順を丁寧に指導していく。
粒子	全体的に、県平均、市平均を下回る結果となった。 ○同じ金属でできている物質をグラフから求めることについては、県、市平均を上回っている。 ○気体の性質や発生方法を求める問題は、県、市平均と同等である。 ●質量パーセント濃度を求める式を選ぶ問題や沸騰石を入れる理由を問う問題は、県、市平均を大きく下回っている。	・基本的な知識は身に付けつつあるが、質量や密度を求める計算、または理由を問う問題を苦手としている。今まで以上授業の課題を明確にして、自分で考えて問題を解く時間を確保していく。 また、より確かな知識を身に付けるために実験の考察を丁寧に行っていく。
生命	全体的に、県平均、市平均を下回る結果となった。 ○「正しいスケッチを選ぶ」問題は78.6%、卵生の名称を答えるの問題では82.1%の正答率だった。 ●花の作りの問題や動物を分類する問題の正答率が低い。	・植物、動物の分類をする問題に課題が見られた。基本的な知識を活用する場面を多く取り入れ、自分で試行錯誤しながら分類させる時間を確保していく。
地球	全体的に、市平均を下回っているが、県平均と同等となっている。 ○火山をマグマのねばりけが小さい順に並べ替える問題、海岸との距離の変化を選び選んだ理由を答える問題は、県、市平均を上回っている。 ●マグニチュードと震度についてあてはまる言葉を選ぶ問題の正答率が低い。	・火山、地形、地震の問題など全体的に高い正答率であった。マグニチュードと震源についての理解が不十分であった。左記のように似たような意味であるがその内容に違いのあるものについては、今まで以上に、図やグラフを関連させながら丁寧に説明していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.1	62.0	59.7
	読むこと	41.5	60.6	58.0
	書くこと	49.7	53.1	50.1
観点	知識・技能	66.2	66.0	63.0
	思考・判断・表現	31.3	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均に比べると3.9ポイント下回っている。 ○ 短い対話文を聞いて、最後の応答部分を答える問題ではどれも県の平均正答率より上回った。授業の中で教師とのやり取りや生徒同士のやり取りをする機会を設けている成果だと思われる。 ● 要点を聞き取り適切な移動方法を選ぶ問題では、平均正答率が8.9ポイントと低く、課題が見られる。	・ある程度まとまった英文を目的をもたせて聞かせ、要点や概要を聞き取る力をつけていく。 ・教師やALTのsmall talkや生徒同士である題材について話す活動などの英語でのやり取りを継続して行い、聞く力を高めるとともに、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができるようにしていく。 ・デジタル教科書を活用して、自然な英語の音に慣れさせる。
読むこと	平均正答率は、市の平均より19.1ポイント低い。 ○ 空欄にあてはまるものを選ぶ問題では、市の平均正答率よりも上回っているものも複数あり、基本的な語句や文法は身に付いてきていると思われる。 ● 対話や英文から必要な情報を読み取り、適切なものを選ぶ問題では平均正答率も低く、「読むこと」への抵抗をなくしながら力を伸ばしていく必要がある。	・今後も大まかな内容や要点がつかめたかどうか確認をするTFクイズやQ&A活動を行っていく。また、代名詞が指しているものが何かを考えさせ、細かい部分での読み取りができているかを確認していき、読む力を高めていく。 ・基本的な単語や基本文の定着を図り、正しく情報を読み取ることができるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より3.4ポイント下回っている。県の平均とは同等だった。 ○ how manyを使う疑問文を正しい語順で答える問題や、Whereを使って居場所をたずねる文やhowを使って状態をたずねる文を答える問題では、県の平均正答率より上回っている。 ● 自分の町について紹介する文を書く問題では、課題が見られる。	・簡単な語句や基本文の練習を家庭学習に位置付け、小テストを行って身に付いたかどうかを確認していく。 ・既習の語句や文法を繰り返し使う機会や書く機会を設けて、定着を図る。また、間違いやすい英文は、全体で共有し正確に書けるようにしていく。 ・基本的な情報を書く活動だけでなく、読んだことをもとに自分の考えや気持ちを書いたり、場面や状況を把握して適する英文を書く活動を行っていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問番号5(40)「学校のきまりを守っている」については、96.5ポイントの生徒が肯定的解答をしている。つまり、学校のきまりを理解し、一人一人がそのきまりを守ろうと意識しているということである。今、学校の規則(校則)、特に生徒の生活面に関するきまりについて、全国的に見直しの動きが盛んになってきている。個人的な欲求を優先するのではなく、学校や地域全体のことなど総合的に考えてどのようなルールが適当なのかを、自ら考えられる生徒が多いことが、このアンケート全体からわかる。

●質問番号6(48)「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問では、本校は県・市の平均とほぼ変わらず2時間より多いと回答している生徒の割合が約53ポイントであった。約半数の生徒は毎日2時間以上ゲームをしていることになる。これからの課題として、そうしたゲームやSNSなどの情報コンテンツの利用も含め、どこまで学校で関わるができるか検討の必要がある。

●質問番号5(28)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」では肯定的な回答の割合が県・市の平均より下回っている。本校の肯定的回答の割合は77.2ポイントであった。これは、授業においてその目標が全員に伝わっていないことを示している。生徒一人一人に正確に伝えられるよう、授業のはじめに目標ややるべき内容をさらに丁寧に説明する必要がある。教師には生徒全員が授業の目標や学習内容を理解しているか確認を行い、許される時間の中で必要であれば補足説明を行うなど工夫をし、改善を図ることが求められる。同様に質問5(30)「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答も県・市の平均を下回っている。これは、上記の状態が改善すれば、ノートへの書き込みも増えると考えられる。

●質問番号1(3)「家で、学校の授業の予習をしている」では、肯定的な回答の割合が22.9ポイントと県の平均を大きく下回っている。さらに質問番号1(4)「家で、学校の授業の復習をしている」も、予習ほどではないが県の平均を下回っている。質問番号4(20)の「難しい問題にであうと、よりやる気が出る」の回答でも、肯定的な回答が県の回答を18ポイントほど下回っている。このことから、学習の取り組み方が消極的で、学習を深める意欲が低い傾向にあることがわかる。さらに、質問番号11(105,108,109)での国語、数学を日常に応用できないか考えているかという質問の肯定的回答が低いことから、教科にもよるが学習を生活に展開する方法を考える力が弱いことがうかがえる。半面、質問番号5(38)では「先生に分からないことを聞くことができる」という割合が県を上回っている。学習していることがやがては生活や今後の未来を豊かにする、ということを実感できるような指導に努めていきたい。生徒に意欲をもたせることができれば、積極的に教師に聞きながら学習を深めることができると考えられる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
わかる授業の展開を中心とした学習指導の工夫・改善	・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいの共有と書いたり伝え合ったりするなど言語による振り返りを行い、その時間に学ぶべきことがわかったかどうかを確認させる。 ・タブレットの有効的な活用 ・家庭学習の習慣化の定着に向け、毎日家庭学習ノートの提出	・「授業の中で、目標が示されている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問への肯定的回答が県や市に比べ下回っている。何を学んだのか認識させるためにも、丁寧に確認をしながら目標を共有し、しっかり振り返る時間をとる必要がある。 ・「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、県や市より上回っている。しかし、一日当たりの勉強時間が少なく、決まった時間に学習に取り組めていない状況がうかがえる。毎日決まった時間に行うことや、学習の仕方など助言をしていく。
対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・授業の中で周囲と意見を出し合い、考えを深められるような時間を取るようしている。	・「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問への肯定的回答は、県や市より下回っている。